



ひととプロフィール

北村西望の肖像彫刻

NO. 391

分類 彫像 浮彫 寄木装飾 絵画 書

作品名 高安徳右衛門氏立像

素材 石膏 原型 着色 ブロンズ 木

寸法 H W D 径

86 不明

制作年 1941 M T S 22

目録番号 T-116

展示 取蔵 野外 中蔵 1 2 新館外部 新館

アトリエ 彫刻館 ケース 内外

2019年8月10日 [土]—10月31日 [木]

井の頭自然文化園 彫刻館 B館

【開園時間】午前9時30分～午後5時(入園は4時まで) 彫刻館は4時30分までご覧いただけます。

【休園日】毎週月曜日(祝日や都民の日に当たるときは翌日)、12月29日～1月1日。

【入園料】一般 400円、65歳以上 200円、中学生 150円 *小学生及び都内在住、在学の中学生は無料

<http://www.tokyo-zoo.net/>

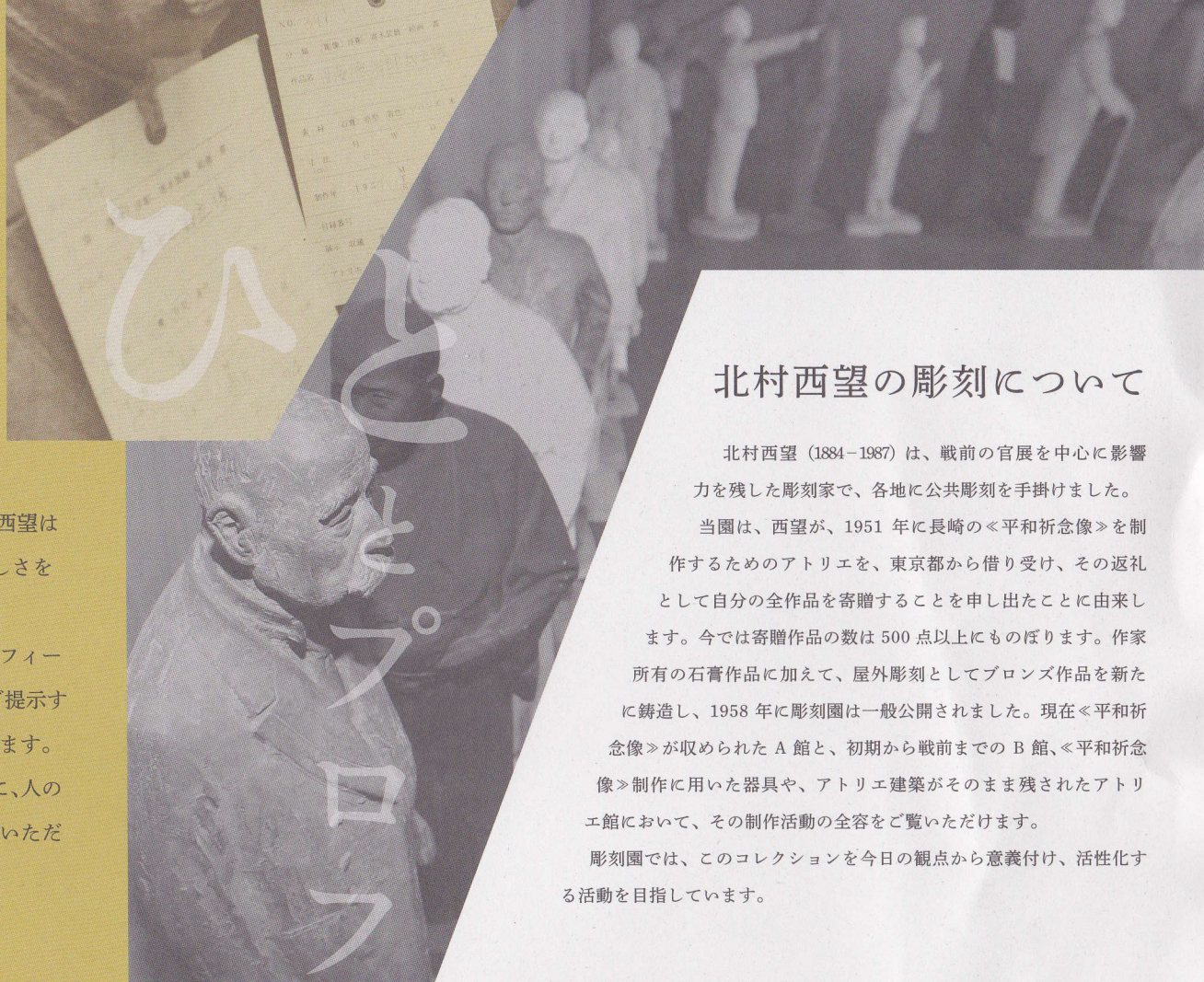
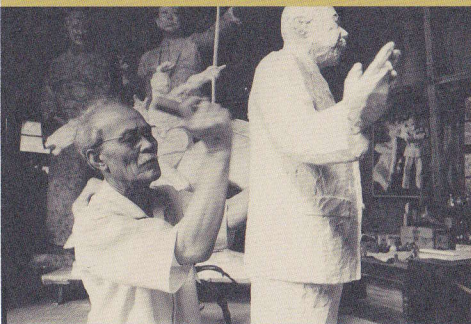


Inokashira Park Zoo
Sculpture Museum

彫刻家・北村西望による肖像彫刻約65点を展示いたします。肖像は、故人の業績を公共の場に残し、あるいは近しい存在の記憶を留めるために依頼されました。完成したブロンズ像は铸造されて注文主に納められ、過程で作られた石膏原型が芸術家の手元に残されました。こんにち彼の肖像制作の全貌を知ることができるのも、彫刻家本人が寄贈したコレクションならではのものです。自律的な表現とは異なり、一種の請負仕事であったのにも関わらず、「人がする事は人のためでなければならぬ」と、西望は、芸術家による社会参加の意味を見出していました。

肖像主となったのは、戦前から戦後にかけての実業家、スポーツ選手などで、故郷長崎出身者が多いのも、彼の信条や交友関係をうかがい知ることができます。西望は「内容・外姿混然一体」であることを求め、内面にある威厳や奥ゆかしさ、その人らしさを重視していました。

本展では、肖像作品に加え肖像主のプロフィールを、人にまつわる社会的な属性としてご提示するとともに、内面の表出をもご覧いただけます。固有の場と時間と結びついた用途のほか、人のいかなる要素を三次元表現にしたか、観察いただくよい機会となるでしょう。



北村西望の彫刻について

北村西望（1884-1987）は、戦前の官展を中心に影響力を残した彫刻家で、各地に公共彫刻を手掛けました。

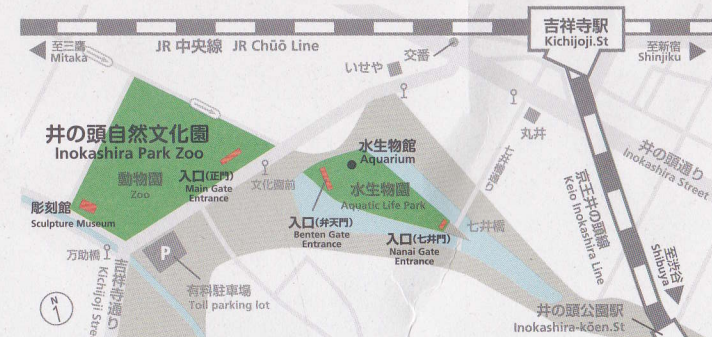
当園は、西望が、1951年に長崎の《平和祈念像》を制作するためのアトリエを、東京都から借り受け、その返礼として自分の全作品を寄贈することを申し出たことに由来します。今では寄贈作品の数は500点以上にのぼります。作家所有の石膏作品に加えて、屋外彫刻としてブロンズ作品を新たに铸造し、1958年に彫刻園は一般公開されました。現在《平和祈念像》が収められたA館と、初期から戦前までのB館、《平和祈念像》制作に用いた器具や、アトリエ建築がそのまま残されたアトリエ館において、その制作活動の全容をご覧いただけます。

彫刻園では、このコレクションを今日の観点から意義付け、活性化する活動を目指しています。



井の頭自然文化園

東京都武蔵野市御殿山1-17-6
TEL:0422-46-1100



JR中央線・総武線、京王井の頭線、各線の「吉祥寺駅」から徒歩10分